

# 地域研究と 教育

vol.  
3



島根県立大学短期大学部  
松江キャンパス

しまね地域共生センター  
Shimane Center for Enrichment through Community, The University of Shimane Junior College

〒690-0044

島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-28-8322

FAX 0852-28-8366

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp>





# 「地域研究と教育 Vol.3」

## はじめに

島根県立大学短期大学部松江キャンパスは、健康栄養学科・保育学科・総合文化学科の3つの学科から構成されており、教育研究にあたる教員35名と職員で組織されています。

各教員の研究は、それぞれの専門領域の学問的な課題探求によるものであり、松江キャンパス全体で、人間諸科学の多彩な領域の研究がおこなわれています。

そのなかから、近年行われた「地域」に特化した研究と、地域貢献を目指した研究教育活動を、「地域研究と教育Vol.3」と題し、第2版までの内容を更に充実させて編集しました。地域の活性化を支える、松江キャンパスの教職員一同、さらに学生の活動意欲の高さを、地域の皆様に知っていただきたいと思います。

松江キャンパスは、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受けて、平成26年4月1日に、「しまね地域共生センター(愛称:しまね縁ラボ)」を開設しました。この「しまね縁ラボ」は、松江キャンパスを拠点とする、地域の「ともに支え合う学びのプラットフォーム」として設立したものです。開設以来、松江キャンパス教職員一同は、松江キャンパスならではの地域貢献の新しい姿を求めて、様々な取り組みを展開しています。私たちは、「しまね縁ラボ」を通して、今後さらに、地域と大学の一体的な教育研究活動を展開していきます。「地域人材の育成・雇用機会の創出」「地域活性化・地域支援の取り組み」「社会連携・地場産業の振興」といった大学COC(Center of Community)の目標は、これまでの松江キャンパスの活動エネルギーの方向性と完全に一致しています。

今後とも、地域との連携を深め、歴史ある「地域大学」として地域に貢献していきますので、地域の皆様には、どうぞさらなる連携をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成27年3月

松江キャンパス副学長 山下由紀恵



## Contents

### 事業報告・社会教育

- 事業報告  
「ご縁の国しまね観光コンベンション  
in松江」の開催 ..... 02
- 公開講座  
椿の道アカデミー ..... 03
- 風土記の語る神話 ..... 03
- 栄養士のためのステップアップ講座 ..... 03

### 健康栄養学科 地域の「食」と栄養

- 科学で証明する島根県産つや姫のおいしさ ..... 06
- 有機農業のための技術開発プロジェクト ..... 07
- 酢まね柿っこ・酢まね柿サイダー ..... 07
- 「しまね和牛」で美味しく地域活性化 ..... 08
- 小学校での食育授業 ..... 09
- 大学と行政で行う食育の展開 ..... 09

### 保育学科 地域の子どもと「保育」の支援

- 第41回ほいくまつり ..... 12
- 教員と学生による地域支援ボランティア ..... 13
- 民話のデジタル化による再生 ..... 14
- 障害児発達支援における人的環境の課題 ..... 14
- 島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会への協力 ..... 14
- 保幼小連携教育体制における多様性の研究 ..... 15
- 保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題 ..... 15

### 総合文化学科 「地域文化」の資源的活用

- おはなしレストランライブラリー  
「マイクロ・ライブラリーアワード」を受賞 ..... 18
- 絵本の読み聞かせ ..... 18
- 松江の文化資源と社会に活かす取り組み ..... 19
- 島根県の幼児の方言を調査 ..... 19
- 地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ ..... 20
- フィールドワークへのいざない ..... 20
- 観光まちづくり ..... 20



### 公開授業

- 健康栄養学科  
「専門職」としての「知識・技術・倫理」 ..... 04
- 保育学科  
今、子供達に何が必要か ..... 04
- 総合文化学科  
裏返る町 ..... 04
- 「ふるさと教育」生涯モデル ..... 05
- 食に関するコンクールへの協力参加 ..... 10
- 美味しさと健康のサイエンス ..... 10
- 「やすぎとじょ」でレシピを考案 ..... 10
- 小児糖尿病大山サマーキャンプ ..... 11
- 炎症性腸疾患患者会食事学習会 ..... 11
- 地域振興に生かす特許 ..... 11



- 虐待の早期発見と支援に向けて ..... 15
- しまね県民福祉大会への協力 ..... 16
- 島根県障がい者アート作品展への協力 ..... 16
- 障がい者虐待防止に関する検討会 ..... 16
- 松江市保育研究会への協力 ..... 17
- 松江市保育研究会造形展への協力 ..... 17
- 島根県内における保幼小連携教育の現状と課題 ..... 17



- 地域観光の国際化に貢献を ..... 21
- 異文化体験から学ぶ ..... 21
- 明治時代の文化財「興雲閣」 ..... 21
- 五感を使って歴史を学ぶ ..... 22
- 「出雲国風土記」を歩く ..... 22
- 地域の文化資源を見つめる ..... 22
- 山陰の「小さな文化」を楽しむのんびり雲 ..... 23



## 「ご縁の国しまね 観光コンベンションin松江」の開催

平成26年6月28日(土)、本学松江キャンパス総合文化学科教員を中心に、観光による地域の魅力発信を目的としたイベント「ご縁の国しまね 観光コンベンションin松江」を開催しました。

第1部の基調講演では、「観光が島根の未来を拓く!」と題して、石森秀三氏(北海道大学特別招聘教授)に、グローバルな視点から島根観光のポテンシャルを示唆していただきました。パネルディスカッションでは、藤原洋氏(シーズ総合政策研究所所長)、山内道雄氏(海士町長)、下森博之氏(津和野町長)、小泉凡本学教授が登壇し、鉄の歴史を活かした雲南市吉田町、人づくりに力を入れる隠岐郡海士町、歴史的町並みを活かした津和野町、「怪談」を文化資源に活かす松江市の取り組みについて、コーディネーターの工藤泰子准教授の進行により議論されました。また、文化情報誌『のんびり雲』の歩み(大塚茂教授)、地域情報を発信する英語力の育成(小玉容子教授、キッド ダスティン講師)など、地域に根差した本学教育内容の紹介がありました。

第2部では有福神楽保持者会による石見神楽公演が実施され、島根の魅力を発信・再認識する機会となりました。

会場には本学学生のほか、沖縄や東京など県外からも大学・観光関係者などの来場があり、参加数は約200名となりました。



## 公開講座 椿の道アカデミー

—教員の研究成果を生涯教育へ—

1992年に「短大火曜講座」としてスタートした松江キャンパス公開講座は、今年で22年目を迎えます。公開講座には毎年のべ2000人近い受講者が参加し、社会人の生涯教育の場として地域に定着しています。2014年度は14講座が開講され、内4講座は松江市民大学との連携講座、1講座は山陰民俗学会との連携講座となっています。

2014年度は、従来からの講座に加え、「子どもがいる家庭のための英語教育実践講座」「子どもの困った行動に対処する養護・保育のスキルアップ講座」「案外知っているようで知らない『人』の話」、文化資源探求講座の「松江ゴーストツアー」などが新たに加わり、多様性を増しています。今後も公開講座の開催を通して、会員および広く地域の皆様に学び楽しむ場を提供していきます。



## 風土記の語る神話

—出雲国風土記を中心に—

島根県「古事記1300年」事業に合わせ、藤岡大拙氏と松江キャンパス教員のコラボによる研究プロジェクト「出雲神話翻訳研究会」を、椿の道アカデミーの講座として、平成23年度に発足させ、ホームページも開設しました。時に面白おかしい、親しみ深い出雲弁を交え、その奥に深い学識と郷土への愛情を湛えた藤岡氏の語りは、3年間に亘り好評を博し、その続編として、26年度から始まったのが、「古事記」から「風土記」へと神話の舞台を移した、「風土記の語る神話」です。



この講座は、管理栄養士国家試験の合格を目指す栄養士の卒後教育として、島根県内の栄養士を対象として開催し、毎年約30名の方が参加しています。本学HPの在学生・卒業生総合支援web『Camellia(カメリア)』に質問掲示板を立ち上げ、日程が合わない、遠方で来れないという方でも、随時質問ができるよう対応しています。合格後も情報提供を希望する人が多く、卒業後や国家試験合格後も繋がりを絶やすことなく、地域に貢献できる講座を目指しています。

## 栄養士のためのステップアップ講座

—卒後教育として—

この講座は、管理栄養士国家試験の合格を目指す栄養士の卒後教育として、島根県内の栄養士を対象として開催し、毎年約30名の方が参加しています。本学HPの在学生・卒業生総合支援web『Camellia(カメリア)』に質問掲示板を立ち上げ、日程が合わない、遠方で来れないという方でも、随時質問ができるよう対応しています。合格後も情報提供を希望する人が多く、卒業後や国家試験合格後も繋がりを絶やすことなく、地域に貢献できる講座を目指しています。



### 健康栄養学科

## 「専門職」としての「知識・技術・倫理」

平成26年11月9日、京都府立大学大学院教授であり、26年度本学客員教授の木戸康博先生による公開授業を、公益社団法人島根県栄養士会と共催で開催しました。当日は、浜田キャンパスにおいても、講義中継機器を使用して同時配信し、総勢150名ほどが受講しました。「専門職としての役割と倫理綱領」「栄養アセスメント・栄養診断」と題してご講義いただき、管理栄養士・栄養士として、国民の要請に的確に対応し、社会に貢献していくためにはどうあるべきか、本学学生と教員、県内の管理栄養士・栄養士が共に学びました。



(参加者：本学健康栄養学科学生72名、教職員11名、学外専門職61名)

### 保育学科

## 今、子どもたちに何が必要か

ー幼児期運動指針の意図することー

平成26年11月29日、松江キャンパス大講義室において、山梨大学大学院教育研究科・中村和彦教授による客員教授講演会を開催しました。「今、子どもたちに何が必要かー幼児期運動指針の意図することー」と題し、文部科学省幼児期運動指針策定委員会委員のお立場から、児童・生徒の体力・運動能力低下が危惧されている今、「幼児期から学童期にかけて子どもたちに必要なことは何なのか」この指針の意図することを中心に保幼小の連携・接続も踏まえ、多角的、具体的にお話いただきました。



(参加者：本学保育学科学生・教員、学外専門職・行政関係者57名)

### 総合文化学科

## 裏返る町

ーショッピングモールから考えるこれからの風景ー

平成26年11月19日、松江キャンパス大講義室において、東京大学大学院人文社会系研究科(文化資源学)・木下直之教授による客員教授講演会を開催しました。お城や風景、看板、銅像、そして巨大な箱のようなショッピングモール(先生はそれを「町が裏返っている」と表現します)。カメラを手にして、日本全国を駆け巡りながら見つけた「文化資源」の数々。日本の文化資源学の草分けである先生のご研究の一端を披露していただきました。



(参加者：本学総合文化学科学生155名、教職員22名、地域の人びと5名)

## 「ふるさと教育」生涯モデル

ー島根県益田市モデルー

地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす



平成26年度益田市ふるさと教育Outcomeアート展



本研究は、益田市保育研究会(ふるさと教育研究委員会)による「ふるさと教育の生涯モデル」を基盤としつつ、地域研究や保育研究に関わる研究者、地元専門職、そして社会教育に関わる地元団体が共同プロジェクトを組んで、「ふるさと教育」カリキュラムの支援システムの作成、保幼小発達段階におけるふるさと教育の協同的体験の発達の意義の検討を進めています。地域資源と保育教育現場での活動実態を研究協議し、益田市をモデルとしたふるさと教育の「Webシーズ・マップ」作成によって、カリキュラムの具体化を目指します。



【協力団体】益田市保育研究会、益田市教育委員会、益田市福祉環境部、島根県中山間地域研究センター、(株)バイタルリード

(北東アジア地域学術交流研究助成金共同プロジェクト研究)



## 科学で証明する 島根県産つや姫のおいしさ

島根県では地球温暖化により、平坦地域の「コシヒカリ」の品質低下が問題となっています。これに対して、平成24年から、品質が安定し、良食味米である「つや姫」の普及拡大に取り組んでいますが、今後一層の生産拡大のためには、島根県産「つや姫」の食味等に関する商品特性を把握した上で、商品のPRや一層の食味向上を目指す必要があります。

そこで、平成25年度から、教員および学生が、島根県、島根県農業技術センターと共同し、島根県産「つや姫」の食味の「科学的評価」に取り組み、該当年度産米について、食味官能検査による消費者の立場でのおいしさの評価、電子顕微鏡による炊飯米の骨格構造の検討、テンシプレッサーによる炊飯米の粘りと硬さの評価を行いました。

また、平成26年度は、島根の「つや姫」マイスター集合研修にも参加し、生産者の方々との交流を深めるとともに、「おいしさの見える化」と題して、これまでの研究成果についても報告しました。

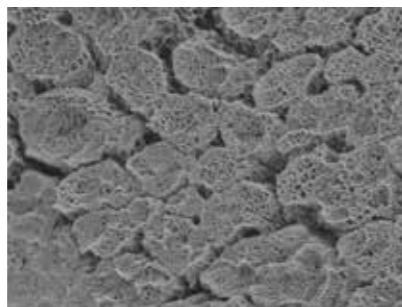
### 官能試験

「コシヒカリ」「つや姫」「きぬむすめ」を実際に食べて評価し、粘り、香り、味などのおいしさを構成する要素を検討しました。



### 理化学分析

電子顕微鏡で炊飯米デンプン粒子の構造を観察テンシプレッサーで炊飯米物性(粘りと硬さ)を機械的に測定しました。



新しくできた統一精米袋

JA全農しまねによる「つや姫」の認知度向上および販売拡大のための統一精米袋の作成に際しては、本学教職員一同で、一次審査に協力しました。

(島根県、島根県農業技術センターとの共同研究、しまね地域共育・共創研究助成金研究)

## 有機農業のための 技術開発プロジェクト

島根県では、有機農業を県農業の柱の一つとして推進する取り組みが、平成24年度から本格的にスタートしています。有機農業の推進は、農業の自然循環機能の増進、環境負荷の低減、生物多様性の保全等、島根県にとって重要な課題ですが、有機農業に対する消費者の理解と関心は未だ低いのが現状です。今後さらに、有機農業の推進、オリジナル品種(品目)の開発を推進していくためには、消費者の理解と関心を高めていくことが重要となります。そこで、



平成26年度から、島根県、島根県農業技術センターと共同し、有機農業産物、オリジナル品種(品目)の食味等に関する分析を行い、有機農業、商品のPR、食味向上に取り組むこととしました。平成26年度は、「トマト」及び「メロン」の官能評価、食味を表現する用語の整理に、学生と教員で取り組みました。

(島根県、島根県農業技術センターとの共同研究、しまね地域共育・共創研究助成金研究)

## し 酢まね柿っこ・酢まね柿サイダー

—地域貢献プロジェクトの成果活用例—

平成23年度から西条柿熟柿の安定生産技術の開発、その熟柿から作ったピューレを利用した食品の開発に取り組んでいます。平成25年6月には、東出雲の柿農家と共同で熟柿ピューレを用いた、柿果汁入り飲料「酢まね柿っこ」と炭酸飲料「酢まね柿サイダー」の商品化を行いました。これらの飲料には、松江市東出雲町産の西条柿から作った熟柿ピューレが10~30%含まれています。熟柿ピューレ入りの飲料は全国的でもたいへん珍しいものです。



酢まね柿っこ

酢まね柿サイダー



# 「しまね和牛」で美味しく地域活性化

—研究・教育・地域貢献の三本柱で—

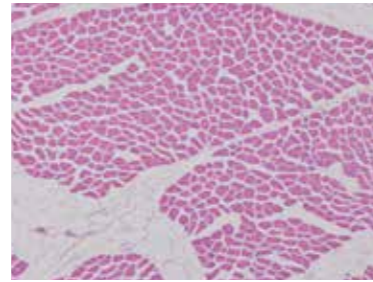
## 研究：しまね和牛のおいしさを科学的に検証

- 官能試験** 健康栄養学科学生および教員、地域の方々に実際に食べてもらい評価する方法
- 理化学分析** おいしさを客観的に評価する方法



### 成分・組成

◆どんな成分が含まれていると食味が良いのか？



### 肉質（筋繊維）の評価

◆おいしい食肉の肉質はどんな構造なのか？



### 物理的性質

◆食肉の柔らかさは？どんな調理方法でおいしくなるのか？

平成18年度からの継続研究です。平成25-26年度は、肥育期間に着目して美味しい「しまね和牛肉」を、様々な角度から科学的に研究しました。また、県内の農産物を利用した食肉加工品への可能性も研究しています。研究成果は卒業研究でも発表しています。

(島根県、島根県畜産技術センターとの共同・受託研究、しまね地域共育・共創研究助成金研究、北東アジア地域学術交流研究助成金)

## 教育：地域の食材の良さを知り、活かせる栄養士の育成

平成26年度は島根県畜産技術センターおよび(株)島根県食肉公社、JA全農しまねの協力を得て農畜産物の生産過程を学ぶことを通して、栄養士の卵として大事に育てられたものを慈しみ、食品を大切に扱う気持ちを養うことができました。



## 地域へ発信：地域農畜産物の特性を生かしたレシピ・料理の提案

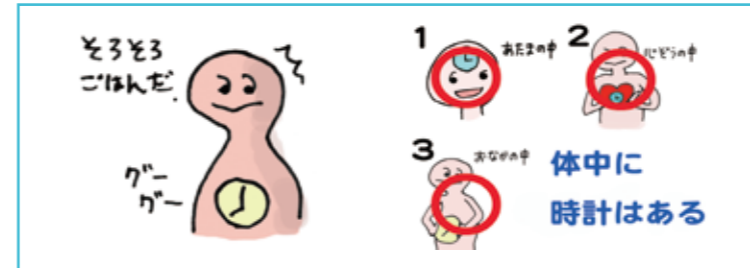
島根県農畜産振興課、JA全農しまねの協力を得て、平成26年度の飛鳥祭(学園祭)で、しまね和牛の特製カレーを研究室にて作成・販売しました。研究に使用している出雲市斐川町産「出西生姜」の牛肉への作用と島根米「つや姫」の特性が絶妙なバランスで調和し、連日完売の人気を博しました。卒業研究成果を掲載し、おいしさの理由も発信しています。



# 小学校での食育授業

—乃木小学校と連携—

乃木小学校での食育授業は、湖南中学校、乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに平成19年度から始まり、今年度で8年目を迎えます。これまでに「食事のあぶら」や「生物リズム」「朝食の大事さ」などのテーマで、5年生全員といっしょに楽しく勉強してきました。ユニークな質問がたくさん出てくる授業です。これまでに「体内時計の針は何でできているのか?」とか「和食と洋食のどっちが良いのか?」などの質問がありました。健康栄養学科の学生がいろいろ調べてお答えしています。



# 大学と行政で行う食育の展開

—地域貢献プロジェクト—

若い世代の食の乱れが問題となっています。本学では平成23年度から松江市と連携し、より実効性のある地域交流型の食育を試みています。大学は地域と繋がる場。学生は地域住民と交流することにより食の大切さを学び、学生から学生、大学から地域へと活動の輪を広げ、世代間の垣根を越えた新たな食育の展開を目指しています。





## 食に関するコンクールへの協力参加

平成26年度、本学で開催された、「わが家の一流シェフ in 島根」料理コンクール（島根県主催）及び牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会（島根県牛乳普及協会主催）に、教員と学生がボランティアとして参加しました。「おいしい・たのしい・ためになる」（島根の食育）について、参加者の皆様と一緒に考え、学ぶことができました。



## 美味しさと健康のサイエンス

— 地元の中学校と連携 —

平成25年度「サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)」に「美味しさと健康のサイエンス」が採択され、地元の中学校と連携してサイエンスの体験学習を実施しました。テーマは『食・美味しさ・健康』とし、3日間連続で「講義と実験」と「調理と喫食」の内容を盛り込んだ参加型のプログラムを企画しました。

### 3日間の講座カリキュラム



1日目

#### 牛乳の科学とおいしさ

- ・牛乳の成分を分析してみよう
- ・島根県牛乳料理コンクール最優秀料理2品を調理しよう!



2日目

#### 味覚とうまみの生理学

- ・あなたの味覚を測定してみよう
- ・だしを使った調理と味の比較を試みよう



3日目

#### 食事と身体の収支

- ・あなたの身体のエネルギー効率を調べてみよう
- ・自分に合った献立を選んでみよう

## 「やすぎどじょう」でレシピを考案

— 安来市と連携 —

平成25年度、やすぎどじょうの販売促進と話題提供を目的に、学生がやすぎどじょうを使用したレシピを考案しました。2年生は、どじょうを春巻きの皮で包み揚げ、独自のソースをディップにして食べる「どじょうスティック」を、1年生はどじょうをオイルサーディンの要領で油漬けし、ピザ生地のにせた「どじょうピザ」を提案しました。最初は、どじょうの見た目に圧倒されていましたが、試行錯誤を繰り返し、今までのどじょうレシピとは一味違った若者らしいレシピが完成しました。この作品は、安来市長にもお披露目、試食をして頂きました。



## 小児糖尿病大山サマーキャンプ

毎年夏休みに、1型糖尿病の子ども達が、学生ヘルパーや医療スタッフとともに集団生活を行う、大山サマーキャンプが開催されます。糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身に着けることが目的です。ここに、教員と2年生が、食事係として毎年参加しています。食事は、子ども達にとって最大の楽しみで、また、病気の治療に欠かすことができない大切な物です!暑い厨房での作業は大変ですが、やりがいがあり、貴重な勉強の機会となっています。



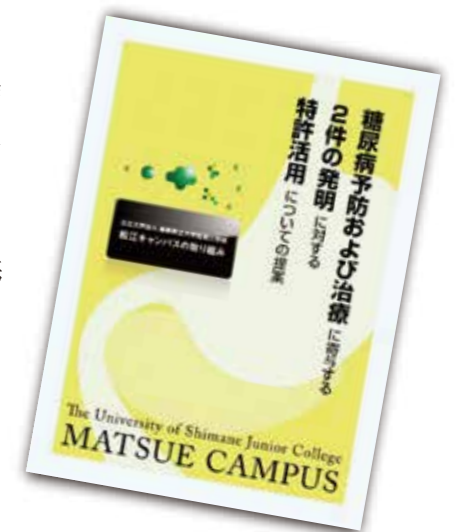
## 炎症性腸疾患患者会食事学習会

炎症性腸疾患は原因不明の難病です。この病気にかかると、厳しい食事制限をずっと強いられることとなります。島根県には、松江、出雲、浜田、益田に炎症性腸疾患患者会があり、年1回程度、「上手においしく食べるための食事学習会」が開催されています。そこに、教員と学生が参加し、患者さんやスタッフと一緒に、作って、味わって、学んでいます。



## 地域振興に生かす特許

島根県は全国的にも糖尿病有病率の高い県です。島根での糖尿病患者数の減少や医療費削減、健康寿命の延伸を目指して、糖尿病予防のための研究を行っています。研究成果をもとに、平成24年に2件の特許を取得しました。現在は特許を活かして、産学官の連携による糖尿病予防のための栄養価計算ソフト、経管栄養剤の実用化を検討しています。地域の資源や活力を外に出すだけでなくその地域内で生かす、循環型の地域振興に生かせるよう努めています。





平成17年度 文部科学省GP(特色ある教育)採択

## 第41回ほいくまつり

全人的保育者養成を目指して  
-ほいくまつりという総合表現活動の取り組み-

### 「ほいくまつり」とは

- ◆ 保育学科の教育理念を体現するシンボリック的教育活動です。
- ◆ 島根県民会館で毎年6月に開催しており、大ホールは子どもたち・保護者・保育関係者の皆様に溢れます。
- ◆ 構成は、歌唱、影絵劇、劇、そして幕間を繋ぐ司会。41年間、変わらない4本柱として受け継がれています。
- ◆ 本学が独自に置く専門科目「児童文化」の一環であり、保育学生全員が自治的・自主的に取り組み、全保育教員が専門的立場から指導・助言をする、総力をあげての活動です。



### 取り組みの特長

- ◆ 毎年6月開催には大きな意味があります。この取り組みを通じて、1年生は入学間もない時期に「保育」の責任と難しさ、そして喜びと夢に衝撃的に出会います。2年生は本格的に保育に向かう意欲と意味と自信を獲得していきます。  
楽とは言えない準備期間を乗り越えて迎える公演では大きな感動を味わいますが、それはゴールではなく、深い保育の学びへの契機となり、始まりとなっています。
- ◆ 40年以上の歴史により、近年では幼少期に「ほいくまつり」を観た方が我が子連れて再び訪れるといったお話をよく耳にします。また、親子二代にわたって「ほいくまつり」に取り組むといったことも出現しています。
- ◆ 保育を志す県内高校生の認知度は高く、中・高校生が保育者という将来の夢に出会う場となっており、この取り組みは乳幼児・保護者・保育関係者、そして保育者を夢見る若者に対して、限りない魅力を放っていると言えるでしょう。

## 教員と学生による地域支援ボランティア

保育学科では、年間を通じて地域の福祉関係者等からのボランティアの依頼に応じています。学生たちは、松江医療センターや東部島根医療福祉センターなどの重度の障がい児・者が入所する施設(病院)や地域の子どもたちが集う東津田児童館におけるお祭り、松江市の特別支援学級に通う子ども達の長期休み中の居場所を提供している友遊事業などにボランティアとして参加しています。笑顔と楽器演奏などの特技を生かし、施設を利用する方々から喜んでもらっています。





## 民話のデジタル化による再生

— 匹見町道川地区と邑智郡大和村 —

昭和50年代に民話の書き起こし研究を残した本学卒業生の協力を得ながら、かつての手書き記録集「島根県美濃郡匹見町昔話集稿：道川地区」「島根県邑智郡大和村昔話集稿—第1巻：比敷・宮内・村之郷地区」をデジタルデータ化しました。かつての方言資料を現在の子どもたちに伝承文化として残し、民話を生活体験の中に蘇生させるための検討を行っています。



(しまね地域共育・共創研究助成金研究)

## 障害児発達支援における人的環境の課題

島根県の「障害児」保育・支援の専門職に焦点をあて、平成26年度に県内の市町村の健康福祉行政部局と教育委員会を対象に、0歳から就学前までの健診体制と発達相談・教育相談体制に関する質問紙調査を実施しました。島根県のこの領域での人的環境の課題を分析するとともに、しまね地域共生センターの研修プログラム開発に活かしています。

【調査協力16市町】

海士町、西ノ島町、安来市、松江市、出雲市・雲南町、奥出雲町、飯南町、大田市、江津市、川本町、邑南町、浜田市、益田市、津和野町、吉賀町

## 島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会への協力

毎年11月下旬に本学アリーナに島根県内全域の保育所(園)、幼稚園から乳幼児の描画作品約3,000点を集めて、作品審査会を行っています。保育学科美術担当教員も審査員として加わるこの公開審査会は保育者の造形指導研修の側面も持たせているため、県内各地域から多くの現職保育者が参加しています。

選ばれた特選作品144点は、島根県立美術館にて展示し一般に公開します。また展示対象となった作品を掲載した画集を毎年刊行し、県内の保育・教育現場において造形指導の参考資料として活用してもらっています。



## 保幼小連携教育体制における多様性の研究

平成25年度学術教育研究特別助成金共同研究として、国の「子ども・子育て会議」会長である無藤隆客員教授から、平成27年度を目途に進められている国の保育制度改革を学び、合わせて松江市教育委員会と子育て課による「松江市接続期カリキュラム」研究発表を受けて、県内専門職とともに、新たな自治体規模で行われる保幼小連携教育の仕組みのあり方について協議しました。さらに、保幼小連携の流れから外れやすい認可外の小規模保育事業を視察研究し、島根県内における保育の実態の多様性を探求しています。

(学術教育研究特別助成金共同研究)



## 保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題

「子ども・子育て新システム」三法が平成24年度に制定され、保育制度改革が進む中、島根県における保育士・幼稚園教諭の2年制4年制免許資格者の実態はどのようになっているのか、平成24年度までの採用動向、今後の人材養成に関する雇用者側の意識も含めて、調査しました。このような制度改革が保育現場でどのように受け入れられるか、養成課程の新たな課題は何か、本調査をもとに検討を進めています。

(学術教育研究特別助成金共同研究)



## 虐待の早期発見と支援に向けて

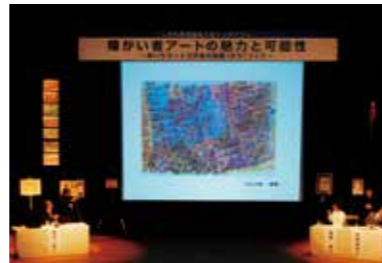
全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は、21年連続で過去最多を記録し、平成23年度は6万件に迫ろうとしています。島根県内の児童相談所が平成23年度に対応した児童虐待の相談件数は161件ですが、決して少くはありません。また、全国では虐待死する事例も続きますが、厚生労働省の調査によれば、その4割強が0歳児です。不幸な事例を重ねないためにも児童虐待の早期発見とその支援が必要です。そのためには、ケースワークの初期から支援の方向性を打ち出すまで、ケースワーク過程と一体化したアセスメントが必要です。本研究では、現在島根県の児童相談所が用いているアセスメントの有用性を検証するとともに、新たなアセスメントのあり方や現場のケースワーカーのアセスメント力を伸ばすための研修の開発を目指しています。

(学術教育研究特別助成金個人研究)



## しまね県民福祉大会への協力

「平成25年度しまね県民福祉大会」において「障がい者アートの魅力と可能性～あいサポートで共生の島根(まち)づくり～」と題したシンポジウムが島根県民会館にて開催され、保育学科美術担当教員が進行とパネリストを務めました。世界的なアーティストや、日本を代表する障がい者アート施設代表、また企業として障がい者アートを活用・サポートしている方々と、島根県における本分野のあり方について討論を行いました。会場には県民の皆様をはじめ、700名の福祉関係者、行政職員、学生の皆さんが集まり、意見の交換が行われました。



## 島根県障がい者アート作品展への協力



県内全域から作品が寄せられる「島根県障がい者アート作品展」(主催:島根県社会福祉協議会)の公開審査において、保育学科美術担当教員が審査委員長として協力しています。本審査会は関係施設職員の研修の場としても位置づけられており、多くの参加者との意見交換を交えながら進められます。作品は島根県立美術館にて公開され、毎年多くの来場者を楽しんでもらっています。また、毎年作品集を発刊し、アールブリュット(生の芸術)の魅力と可能性を広く紹介しています。



## 障がい者虐待防止に関する検討会

平成24年の障害者虐待防止法の施行に伴い、松江市は「松江市障がい者虐待防止センター」を設置しました。センターでは、障がい者虐待防止に関する検討委員会を立ち上げ、障がい者自身、養護者、福祉従事者を対象に障がい者虐待に関するアンケート調査を行い、その結果を「松江市障がい者虐待防止シンポジウム(平成26年11月22日)」にて報告しました。今後は、その結果が虐待防止マニュアル等に反映されることが期待されます。この取り組みに保育学科福祉担当教員が関わっています。

## 松江市保育研究大会への協力

平成26年11月22日に行われた第8回松江市保育研究大会において、保育学科の岸本強教授は野波保育所で、小山優子准教授は育英保育園で研究大会の指導助言者を務め、分科会の進行と講評を行いました。分科会では、担当園(所)がまとめた研究成果発表後、グループ討議と全体会があり、参加者からも積極的な意見が出され、保育の実践に関する活発な討議が行われました。二人の教員は研究大会までの約2年間それぞれの園内研究会の講師も担当し、保育研究の指導助言をおこなってきました。



## 松江市保育研究会造形展への協力



毎年1月に島根県立美術館にて、本研究会に加盟する全保育園(所)の園児の造形表現を展示する作品展が開催されています。この作品展では、園児の描画作品はもちろん、立体作品や、園の枠組みを超えて作り上げる巨大な壁面装飾作品を展示公開しており、大変多くの来場者に親しまれています。その作品展開催に向けて、50園以上の加盟園職員を対象として、子どもへの造形指導のための講義や解説、また展示、飾り付けの方法についての指導を保育学科美術担当教員が行っています。



## 島根県内における保幼小連携教育の現状と課題



平成24年度学術教育研究特別助成金共同研究として、島根県内と鳥取県の幼保一体化施設(保育所・幼稚園)を視察研究。子ども・子育て新システム関連の法律改正を踏まえて、今後の新たな保幼小連携教育について、研究を進めました。この研究は、島根県健康福祉部青少年家庭課・島根県教育庁義務教育課・松江市健康福祉部子育て課との連携協議を踏まえて進められました。

視察施設

(施設数) 島根県:松江市5・隠岐郡1・安来市1・雲南市1・出雲市1・浜田市2  
鳥取県:倉吉市1

(学術教育研究特別助成金共同研究)



文部科学省GP (Good Practice) 採択

## おはなしレストランライブラリー 「マイクロ・ライブラリーアワード」を受賞

松江キャンパスの絵本専門図書館おはなしレストランライブラリーは、平成26年8月、大阪府立大学より第1回マイクロ・ライブラリーアワードの表彰を受けました。

小規模ながらも本の貸し出しを通じて地域貢献している図書館に贈られ、今回、栄えある第1回目の受賞に全国500館の中からおはなしレストランライブラリーを含め27館が選ばれました。

おはなしレストランライブラリーは、地域に開放して平成26年度で4年目となります。学生たちが企画するライブラリーのクリスマス会などにも大勢の親子連れが来場します。この受賞を機に、大学と地域を結ぶ交流拠点としてより一層皆さまに利用していただける場所にしていきたいと思ひます。



## 絵本の読み聞かせ

— 忌部小学校を訪問 —

毎週金曜日の朝、総合文化学科の卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生たちは、松江市立忌部小学校で読み聞かせの活動をしています。1学年20名程度のクラスで、全学年で絵本を開いて子どもたちと向き合います。平成21年度から継続しており、学生の乗ったおはなしレストラン号に子どもたちは手をふってくれます。待機場所の図書室から眺める四季折々の山の風景も心をやさしくしてくれます。



## 松江の文化資源を 社会に活かす取り組み

— ハーン研究と地域貢献 —

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）を島根の人的資源として観光文化の振興や文化の創造に活かす実践研究に取り組んでいます。

NPO法人松江ツーリズム研究会と連携した「松江ゴーストツアー」は、ハーンが再話した怪談ゆかりの地を語り部の話を聞きながら歩く夜のツアーで、6年間で240回実施し、3963名が参加する（2014年11月末）人気の着地型観光プランとして定着しています。

また、ハーンの没後110年にあたり、「The Open Mind of Lafcadio Hearn」をテーマとする国際シンポジウムを生誕地のギリシャ・レフカダ島で開催し、世界各地からの9名のパネリストによりハーンの社会的活用についてパネルディスカッションを行いました。さらに、レフカダには「ラフカディオ・ハーン・ヒストリカルセンター」がオープンし、展示を通してハーン・島根・日本の魅力を紹介しています。

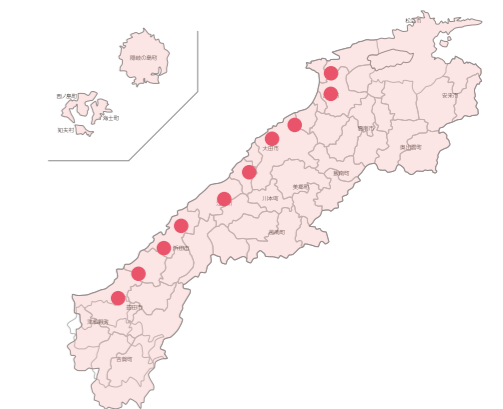


## 島根県の幼児の方言を調査

平成24年度より、益田市から出雲市の10カ所の保育園のご協力のもと、年長児さんのことばを採集し、島根（主に石見地方）の方言が幼児たちにどのように継承されているのかを調査しました。

全国的に方言が消滅しつつあると言われています。確かに、共通語の要素が幼児のことばの中にも多く観察されますが、島根県の方言はまだ健在のようです。このような幼児たちの方言という世代間の文化の継承にかかわる部分に焦点を当て、「ことば」とおして島根県の文化に寄与できるよう研究を行っています。

(学術教育研究特別助成金共同研究)





## 地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ

—へるん探求—

山陰地方にゆかりの深い作家へるん(小泉八雲)の足跡地の探訪を通して、ゆかりの地における小泉八雲の文化資源的活用について、体験的に学ぶことを目的としています。

具体的には、島根県の出雲大社・日御碕神社・一畑薬師、鳥取県日野町の幽霊滝、琴浦町の八橋海岸、大山町の妙元寺などのゆかりの地を前期・後期各1回ずつ訪問し、現地専門家のレクチャーや地域の関係者との交流を通して、地域文化の継承・発信、八雲の資源的活用の意味を探求します。



## 地域観光の国際化に貢献を

—観光フィールド・トリップ—

島根県内の観光地を、地元ならではの情報も加えて、外国人観光客を英語で案内します。また、学生たち自身が、地元の良さを再発見したり、県外出身の場合は島根の良さを発見したりします。平成26年度は、英語文化系1年生が外国人ゲスト達と島根半島を訪れました。ユネスコ無形文化遺産である佐陀神能で知られる「佐太神社」、小泉八雲の作品にも登場する「加賀の潜戸」、松江城の鬼門を守る「華蔵寺」、国譲り神話と深い関係がある「美保神社」などを巡る1泊2日の旅行でした。事前研修で案内の練習、旅行中は英語でガイドの実践をして、旅行後は英語で報告書作成をするというプログラムです。地域観光の国際化に貢献していきます。



## フィールドワークへのいざない

—地域探検学—

奥出雲町でのフィールドワークを、夏季休暇中に2泊3日で行います。グループに分かれて、農家を訪問して聞き取りを行ったり、担当地区を五感を使って調査したりしながら、奥出雲について学んでいきます。調査結果は、地域の方々をお招きした成果発表会で報告します。奥出雲では、このほかにも、農作業体験、そば打ち体験、たたらと刀剣館での学習なども行います。学生はフィールドワークの楽しさと難しさ、地域の文化と地域が抱える問題について考える重要性を学びます。



## 異文化体験から学ぶ

—アジア文化演習—

夏季休暇中に1週間、日本に近くて縁の深い中国(北京)と韓国(ソウル・仁川)を訪問します。北京では、世界遺産(故宫博物院、万里の長城)の見学、京劇や雑技などの民族文化の鑑賞を行うことで、伝統文化への理解を深めます。さらにそこに住む人々の暮らしを理解するために、地下鉄や路線バスを使って下町や市場などにも足を伸ばし、人々と交流しながら日常生活について観察・記録をします。異文化体験をすることで他者理解を深め、口頭発表やレポートを通じて自己表現をする力も同時に磨いていきます。



## 観光まちづくり

—観光まちづくり学—

平成27年度から地域志向科目として動き出すこの授業では、NPO松江ツーリズム研究会の依頼を受けて、松江カラコロ工房訪問者の実態を把握するために、アンケート調査を実施しました。初めは緊張していた学生も徐々に慣れ、積極的に調査に参加していました。

その後、学生たちはグループに分かれ、利用者の出発地(松江市、県内、県外、海外)別の特徴を分析し、報告会を行いました。



## 明治時代の文化財「興雲閣」

—歴史的建造物の検証—

文化的な価値のある建造物の構造や材料等の特徴について学ぶ科目です。平成26年度は、史跡松江城内に立地する島根県指定有形文化財である明治時代の木造建築「興雲閣」の保存修理工事現場を、松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課のご厚意により見学しました。普段は見られない床板や壁紙をはずした様子や、天井裏の小屋組を間近で知る貴重な体験となりました。





## 五感を使って歴史を学ぶ

—松江の文化と歴史—

平成26年度に新規開講したこの授業では、講義・グループワーク・フィールドワーク・プレゼンテーションの四つを実施しました。その目的は、松江の文化と歴史に関する知識の獲得と、それを発信する実践力の育成です。学生は松江城と松江城下町のフィールドワーク及び松江歴史館の見学に参加し、自分たちの視点で松江城と松江の城下町を紹介しました。平成27年度には、2年生を対象とする「しまね歴史探訪」が新たに開講されます。



## 「出雲国風土記」を歩く

—日本古典文学—



なじみある島根の地名の歴史や由来を理解するために、『出雲国風土記』は最適なテキストです。この授業では、出雲大社に遡る由来をもつ熊野大社を中心に、神魂神社、発見までに様々な説があった国庁跡や山代二子塚古墳、古代王陵の丘などを、また出雲のスサノオ神を考えるため須佐神社や松本一号墳、クシナダヒメの鎮座地、「八雲立つ…」の須我神社などをめぐってその地勢や規模を確かめ、複雑な古代出雲の形成過程を歩いて辿ります。学生はレポートと出雲古代マップ、写真や絵図をまとめたフィールドノートを作成し、島根の古代史、神話伝承を体感していきます。

## 地域の文化資源を見つめる

—日本文化演習—

芸術文化の理解を目的として、島根県立美術館の見学を実施しました。美術における女性の表現や、郷土の画家の作品、また水を画題とする絵画等を鑑賞しました。また、宍道湖畔の景観と調和した美術館の建築を通して、「水と調和する美術館」という島根県立美術館の基本的な性格の一つに、触れることができました。



## 山陰の「小さな文化」を楽しむ のんびり雲

—文化情報誌制作Ⅱ—

総合文化学科では、学科発足前年の2006年から、教育活動のひとつの柱として文化情報誌『のんびり雲』の制作に取り組んでいます。昨年(2014年)の秋には第8号を発行しました。

本誌は学生と教員が共同で制作にあたりますが、企画、取材から原稿執筆、誌面制作に至るまで、印刷・製本以外のすべての作業を自



力でこなしているのが特徴です。誌面のレイアウト・デザインもパソコンを使って自分たちで行います。毎年20人前後の学生が制作に参加します。総合文化学科のカリキュラムには「文化情報誌制作Ⅱ」という科目があり、その授業内容は必ず『のんびり雲』の制作。2年生の科目で、1年生は授業としてではなく、サークル活動のような形で『のんびり雲』の制作に参加します。

本誌の合い言葉は「山陰の『小さな文化』を楽しむ」です。有名な文化財・文化遺産ではなく、地味で平凡な、身近にあってなかなか注目されることのない「小さな文化」を見つけて楽しもうというわけです。対象地域は山陰両県で、ほとんどの記事は学生たちが実際に現地に足を運んで(教員が同行します)、取材して書きます。これまでに訪れた取材先はおおよそ150カ所です。

『のんびり雲』は年に1回、10月半ばに発行しています。頁数は90頁前後、全頁カラーで写真をふんだんに掲載しており、寝転がって読める楽しい雑誌です。発行部数は2500部、山陰両県の主要書店で販売も行っています(定価400円+税)。





# 「地域教育と研究」学内研究者一覧 (平成26年度現在)

研究者一覧(平成26年度現在)

社会教育		
頁	タイトル	
5	「ふるさと教育」生涯モデル	山下由紀恵教授、鹿野一厚教授、福井一尊准教授、矢島毅昌講師

健康栄養学科 地域の「食」と栄養		
頁	タイトル	
6	科学で証明する島根県産つや姫のおいしさ	健康栄養学科
7	有機農業のための技術開発プロジェクト	名和田清子教授、片寄成美コーディネーター
7	酢まね柿っこ・酢まね柿サイダー	赤浦和之教授
8	「しまね和牛」で美味しく地域活性化	籠橋有紀子准教授、川谷真由美助手
9	小学校での食育授業	直良博之教授、川谷真由美助手、水珠子助教、葉迫靖子嘱託助手
9	大学と行政で行う食育の展開	名和田清子教授、川谷真由美助手
10	食に関するコンクールへの協力参加	名和田清子教授
10	美味しさと健康のサイエンス	健康栄養学科
10	「やすぎどじょう」でレシピを考案	石田千津恵助教、名和田清子教授
11	小児糖尿病大山サマーキャンプ	名和田清子教授
11	炎症性腸疾患患者会食事学習会	名和田清子教授
11	地域振興に生かす特許	籠橋有紀子准教授、直良博之教授、名和田清子教授

保育学科 地域の子どもと「保育」の支援		
頁	タイトル	
12	第41回 ほいくまつり	保育学科
13	教員と学生による地域支援ボランティア	保育学科
14	民話のデジタル化による再生	山下由紀恵教授
14	障害児発達支援における人的環境の課題	山下由紀恵教授、山尾淳子コーディネーター
14	島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会への協力	福井一尊准教授
15	保幼小連携教育体制における多様性の研究	山下由紀恵教授、岸本強教授、福井一尊准教授、藤原映久講師、矢島毅昌講師
15	保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題	山下由紀恵教授、岸本強教授、小山優子准教授、福井一尊准教授、矢島毅昌講師

保育学科 地域の子どもと「保育」の支援		
頁	タイトル	
15	虐待の早期発見と支援に向けて	藤原映久講師
16	しまね県民福祉大会への協力	福井一尊准教授
16	島根県障がい者アート作品展への協力	福井一尊准教授
16	障がい者虐待防止に関する検討会	藤原映久講師
17	松江市保育研究大会への協力	岸本強教授、小山優子准教授
17	松江市保育研究会造形展への協力	福井一尊准教授
17	島根県内における保幼小連携教育の現状と課題	山下由紀恵教授、岸本強教授、白川浩元教授、福井一尊准教授、藤原映久講師、矢島毅昌講師

総合文化学科 「地域文化」の資源的活用		
頁	タイトル	
18	おはなしレストランライブラリー 「マイクロ・ライブラリーアワード」を受賞	岩田英作教授、マユーあき教授
18	絵本の読み聞かせ	マユーあき教授
19	松江の文化資源を社会に活かす取り組み	小泉凡教授
19	島根県の幼児の方言を調査	高橋純教授、山下由紀恵教授
20	地域資源としての小泉八雲をフィールドで学ぶ	小泉凡教授、松浦雄二教授
20	フィールドワークへのいざない	鹿野一厚教授、小泉凡教授、工藤泰子准教授、塩谷もも准教授
20	観光まちづくり	工藤泰子准教授
21	地域観光の国際化に貢献を	小玉容子教授、松浦雄二教授、マユーあき教授、クリス ラング講師
21	異文化体験から学ぶ	鹿野一厚教授、塩谷もも准教授
21	明治時代の文化財「興雲閣」	藤居由香准教授
23	五感を使って歴史を学ぶ	杉岳志講師
23	「出雲国風土記」を歩く	山村桃子講師
23	地域の文化資源を見つめる	渡部周子講師
24	山陰の「小さな文化」を楽しむのんびり雲	大塚茂教授、鹿野一厚教授